



新人は裏切りませんよ

芋川 ジロト沢左股

福永

【日時】 2009年10月4日（日）

【メンバー】 L大野 飯田 横山 吉岡 國田 福永

「高所恐怖症ではありませんか」「クライミングシューズありますか」と聞かれ、入会しての初山行がジロト沢。もちろん初めて聞く名前。早速調べてみると、リーダー大野さんが愛してやまないところらしい。大滝120+80m、布晒の滝300m。きっと素晴らしいところに違いないが、はたして大丈夫だろうか。

10月4日（日）

前泊した観光センターの側の快適な駐車場から早発し林道へ。工事現場に気を取られながら入山。歩き出してすぐ巻道で踏み抜き左膝に痛み・・・いきなり大きな痣をつくってしまった。こんなことでは先が思いやられる。

10分程度で入渓。前を行く吉岡さん、國田さんの後を追いながら1時間ほどいったところで、ドドーンとスラブが見えてきた。「まさかあれ登らないですよね」とか言っていたら今度は流線が綺麗な布晒の大滝が見えた。「オーバーハングしていますけど、登った方いるのでしょうか」と大野さんに対してまぬけな質問。先頭をいく吉岡さん、自然の流れで右股に入ろうとしたところで、「布晒の滝に行くの？」と大野さん。新人3人は左股の出合いがここであるのに気がつかず・・・まもなく今日のメインの大滝に到着。ここで國田さんと私はクライミングシューズに履き替えた。クライミングシューズをまだ持っていなかった私は、大野さんの予備シューズをお借りした。

大野さん、横山さん、吉岡さん、國田さん、福永、飯田さんの順番でいく。順番を待ちながらセルフビレーや登高器のノウハウを飯田さんと國田さんに手ほどきして貰う。最初の3mが結構厳しいと聞いていたがお助けロープのお陰もあり問題なし。國田さんが丁寧にチェックしてくれてありがたい。2P目、3P目とどんどん

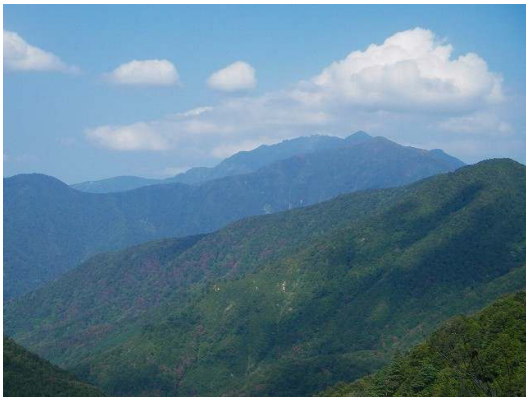




高度があがり下を見るのが恐ろしくなってくる。4P目で飯田さんと順番を待っていたら「あっ」という飯田さんの悲鳴。「とまれとまれ」と何事かと思ったらシュリングが落ちてしまったらしい。飯田さんは仕方なく懸垂で拾いにいった。

さて4P目、登りだしていきなり滑ってしまい、借り物のシューズで水たまりに落ちてしまう。さらに最後2mのところではなんだか腕の踏ん張りが利かない。大野さん曰く、「ロープに頼りすぎ」「壁に近寄りすぎ」そして腕も痛くなり、おまけに滑るとのこと。クライミングは難しい。

フェルト靴に履き替えてみんなが待っているところへ。もうすぐ素晴らしい景色が見えるよという言葉に励まされ5mの滝を高巻く。先に行く吉岡さんの歓喜の声「すごい〜」。私もわさわさと両サイド切れている尾根にあがる。尾根かと思ったらここが略奪点とのこと。滝が左右に別れて流れていく。初めて見る景色。布晒の大滝、これから登る滝、スラブの大伽藍。おにぎりを食べながら遠方を見れば八海山、駒ヶ岳。



雄大な景色に見とれていると何やら下から人の声。栃木矢板の山の会のお二人とのこと。大野さんがトマだと言うと「いつも参考にさせて貰っています」と笑顔でお礼を言われ、そのような会に参加させて貰えた自分自身も嬉しく感じた。栃木のお二人は、とても賑やかで私たちを追い抜いてもずっとお喋りしている声が聞こえ楽しそうな様子うかがえた。

80mの大滝はロープをだして貰いなんとかクリア。大野さんと飯田さんがここからが本当の核心部だとなにやら言葉を濁しながら新人の私たちに言う。

すると1.5m幅のミニゴルジュ。最初に國田さんが両手でつっぱりながら行くが、あと数十cmというところで落ちてしまった。次に吉岡さん、華麗にクリア。さて私はというと「身長があるから大丈夫じゃない」という助言をうけ、両足でつぱったが僅か50cm行ったところでドボン。足がつかないのでちょっと焦るが、泳いでみれば気持ちよく、こんなことなら最初から泳げばよかったと負け惜しみ。

もうすぐ登りも終了というところで、なんと先ほど難なくゴルジュを通過した吉岡さんが足を滑らせつるつるの3mのナメ滑り台を豪快にスライダー。みんな大はしゃぎで、新人は期待を裏切らないよね、と楽しそうだった。飯田さんは「これからはスライダー

小百合と呼ぼう」という始末。

全身びしょびしょの新人3人だったが、天気にも恵まれて寒くもなく、後は藪を漕ぎ下るだけ。左に少し登ると尾根に達し10分程度で展望台。真下あたりにさっき泳いだ淵があるらしい。先頭で横山さんが藪をかきわけてくれながら、1時間くらい行ったところで雨量計の建物に到着。ここで大野さんも一息つきビールで乾杯。



飯田さんの「この下りは急だからね」の言葉通り、滑って足を取られながらも何本も張ってあるロープを頼りになんとか無事下山。

穏やかな癒し系の沢も大好きだけれど、トマに入らなければこんなところに来ることはなかったと思うと御縁というのは不思議なものだどつくづく感慨深く、連れてきてくれた先輩方に感謝。大滝を越えたり、ゴルジュで泳いだりと楽しい秋の一日だった。

【地形図】 六日町、兎岳

【行程】 林道 (6:30) ～広場 (8:10) ～略奪点 (11:15) ～雨量計 (14:30) ～林道 (16:00)

【グレード】 2級

